

福岡市埋蔵文化財センター一年報

第 4 号

昭和59(1984)年度



1985年

表紙写真 多鈕細文鏡（西区吉武高木遺跡第3号木棺墓出土）

序

福岡市埋蔵文化財センターは、市内の発掘調査により出土した遺物の収蔵・整理・保存・研究をおこない、あわせて埋蔵文化財に関する教育普及活動の施設として、昭和57年2月に開館いたしました。開館以来3年間、出土品と発掘調査記録の収蔵・整理、木製品の保存処理をすすめ、また教育普及活動を実施してまいりました。この年報第4号では、59年度の諸活動について報告いたします。今後とも埋蔵文化財の収蔵整理・保存処理の充実をはかり、市民の歴史への関心にこたえる活動をすすめたいと存じます。

御支援・御鞭撻をお願い申し上げます。

昭和60年 8月31日

所長 後藤 直

目 次

序	1
59年度の活動	2
1 遺物の収蔵・整理	2
2 保存処理	2
(1) 木器	2
(2) 金属器	8
(3) 遺構の保存処理・取り上げ	8
3 調査研究	9
(1) 遺物の収蔵等に関する調査	9
(2) 遺物の保存処理に関する調査・研究	9
(3) 図書	9
4 教育普及活動	10
(1) 展示	10
(2) 講座・講演	11
(3) 資料の提供	12
(4) 刊行物	12
(5) 入館者数	13
施設管理業務の概要	14
1 施設管理業務の委託	14
2 施設の整備・補修	14
昭和59年度予算	15
福岡市埋蔵文化財センター条例	15
福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則	16
施設と規模、平面図	17

59年度の活動

1. 遺物の収蔵・整理

59年度末までに収蔵した遺物は市内各地の92遺跡(群)にのぼる。このうち59年度に新たに収蔵したのは、比恵(6次)、麦野下古賀、田村(第1・2地点)、有田(81次)である。いずれも整理、現場移動のため止むをえず収蔵したもので、収蔵庫の通路、荷解き室などに積み重ねた状態にある。

収蔵遺物のうち土器は、表1(次ページ)に示したとおり、パンコンテナ・木箱など4,627箱、完形・復元品4,495個体の多くにのぼる。この他に石器・金属器・木器などの遺物および発掘調査・整理に伴う図面・写真などを収蔵している。これらの収蔵物も遺跡ごとに完結しているわけではなく、一部は現場事務所等に

分散している。

59年度は、収蔵遺物の確認と材質による選別を前年度に引き続き行なった。遺跡ごとにパンコンテナ等を1箱づつ確認し、金属器は金属処理室に入れ保存処理を、また石器はセントラルアレンジャーに整理して収納した。木器は洗浄を行い、ラミネーターを使用し番号のつけかえをした。その一部はPEGにより保存処理をした。確認を終えたパンコンテナにはカードを貼り、台帳(カード)に控えた。収蔵から遺物1点1点に至る体系的なカード等の作製については、検討にとどまった。

2. 保存処理

福岡市内出土の木器・鉄器について保存処理を行なった。また市内発掘調査現場等で、遺構の保存処理・取り上げを実施した。

(1) 木器

保存処理総数235点。このうち国庫補助を受けて処理したものは91点で、うち31点は財団法人元興寺文化財研究所に委託。(詳細は表2・3参照)

保存処理の対象となった木器は、現在までに報告がなされた遺跡の出土品で、実測図、写真が完全にそろったものである。59年度は福岡市博多区那珂深ヲサ遺跡(第1次調査)、博多区高畑遺跡、西区拾六町ツイジ遺跡出土品を対象とした。元興寺文化財研究所に委託したものは、高畑遺跡の木筒、拾六町ツイジ遺跡の漆塗製品等特殊な木製品である。

〈保存処理の経過〉

当センターにおける保存処理法は、PEG-4000含浸によるもので、下記の行程で行ない、1年を要した。

- ①保存処理木器の選定。図面・写真のチェック。現物の確認、洗浄。保存処理カードの作成。
- ②ラベルの作成および木器の浸漬。含浸槽の始動。

[ラベルは註記を行なった上質紙をラミネートフィルムにはさみ、ラミネーターで固定。木器は1点づつ不織布でくるみ、網棚・パンケースを利用して、含浸槽に浸漬。]

- ③PEG-4000を投入。PEG濃度約10%。〔以後取り上げに至るまで、1日に20分間、手動で運転。〕
- ④PEG投入。濃度約20%。
- ⑤PEG投入。濃度約40%。
- ⑥PEG投入。濃度約60%。
- ⑦PEG投入。濃度約80%。
- ⑧PEG投入。濃度約100%。
- ⑨木器の取り上げ。洗浄。乾燥。含浸槽の洗掃。通電9348.8時間。運転617.8時間。〔洗浄には温水を用い、メッシュコンテナに収容し、自然乾燥。〕
- ⑩表面処理。〔トリクロールエチレンを用い、PEGにより黒色化した表面を脱色。〕
- ⑪接着・復元。〔接着にはボンド・アロンアルファ・ラピッド(商品名)、充填および復元部にはボンド・ウッドパテ(商品名)を使用。充填・復元部についてはポスター・カラーで着色。〕
- ⑫処理後の記録。収蔵。〔処理後の写真撮影〈6×7cm、

表1 埋蔵文化財センター収蔵土器出土遺跡一覧

区	遺跡名	コンテナ数	完形・復元土器数
東区	和白遺跡群（高見1・2・3・4・5号墳、宮ノ前1・2・3号墳、猿の塚古墳、下和白遺跡、上和白遺跡）、下和白塚原古墳群（山ノ下支群1・2・3号墳）、蒲田遺跡、蒲田水ヶ元遺跡、多々良込田遺跡（1次-新幹線一、2次）、多々良遺跡、海の中道遺跡、津屋遺跡	箱 555	個 722
博多区	博多遺跡群（冷泉・祇園・店屋町・東長寺・13次）、席田遺跡群（席田・席田中尾・赤穂ノ浦）、宝満尾遺跡、下月隈宮ノ後遺跡、金隈遺跡、金隈上屋敷遺跡、瑞穂遺跡、比恵6次、那珂深ヲサ遺跡、那珂沼口遺跡、那珂君休遺跡（2次）、板付遺跡、諸岡遺跡、麦野下古賀遺跡、三筑遺跡	1,102	670
南区	五十川遺跡（新幹線）、五十川赤目遺跡、三宅廃寺遺跡、野多目枯渡遺跡、野多目前田遺跡、弥永遺跡（新幹線）、老司観音山遺跡、柏原遺跡、大牟田古墳群、瀬戸口古墳群	491	591
中央区	小笹遺跡、福岡城（地下鉄関係）、福岡城御鷹屋敷	85	93
城南区	笹栗遺跡、浄泉寺遺跡、カルメル修道院内遺跡、宝台遺跡、神松寺遺跡、片江辻遺跡、七隈古墳群、早苗田古墳群、干隈古墳群、大谷古墳群、倉瀬戸古墳、片江古墳群	133	249
早良区	西新町遺跡、藤崎遺跡（3地点-地下鉄）、藤崎遺跡（6地点）、高取遺跡、有田・小田部遺跡（4次・5次・6次・7次・8次・19次・21次・22次・23次・24次・25次・26次・27次・28次・29次・31次・33次・36次・62次・81次）、原談儀遺跡、原遺跡、原深町遺跡、飯倉向江遺跡、鶴町遺跡、次郎丸高石遺跡、田村遺跡（1・2次）、四箇遺跡、影塚古墳群、重留古墳群	1,426	932
西区	今宿古墳群、相原古墳群、草場古墳群、広石古墳群、下山門遺跡、下山門南遺跡、石丸・古川遺跡（十郎川）、野方中原遺跡、野方塚原遺跡、野方勸進原遺跡、戸切遺跡、姪浜新町遺跡、徳永アラタ古墳群、乙石古墳群、都地南遺跡、長浜貝塚、吉武塚原古墳群、夫婦塚古墳群、小葎遺跡、野方柳原台遺跡、今宿青木遺跡、今津貝塚、長石2号墳、牟多田遺跡、周船寺大久保遺跡、高柳遺跡、油山小学校、拾六町ツイジ遺跡、千里シビナ遺跡、今山遺跡、小松ヶ丘古墳群	662	1,031
その他	寄贈品、試掘遺物等	173	207
合計		4,627	4,495

35mm)。 処理木器はメッシュコンテナ等に入れ、特別収蔵庫に収納。）

以上のように昭和59年度は委託分も含め、235点の木器についての保存処理が終了した。しかし、現在処理

を必要とする市内出土木器は、板付遺跡・四箇遺跡・那珂久平遺跡・博多遺跡群など約20遺跡、4000点以上にのぼる。さらにまた、今後の発掘調査により出土例の増加が予想される。

表2 59年度 埋蔵文化財センター保存処理木器

整理No.	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
1	捨六町ツイジ	諸手鋏未製品	弥生	W-001	001	接合
2	"	"	"	003	002	
3	"	杵未製品	"	012	005	
4	"	三又鋏	"	015	021	接合
5	"	"	"	016	022	"
6	"	六又鋏	"	017	026	"
7	"	着柄鋤	"	019	027	"
8	"	"	"	021	080	"
9	"	エブリ未製品	"	027	067	"
10	"	"	"	028	064	"
11	"	"	"	031	068	"
12	"	槌	"	035	045	接合
13	"	石斧柄	"	041	047	接合・復元
14	"	槽	"	044	050	接合
15	"	臼状容器	"	047	073	"
16	"	槽	"	049	051	"
17	"	建築材	古墳	060	328	
18	"	有柄木製品	弥生	070	081	接合
19	"	平鋏	古墳	076	120	接合・復元
20	"	平鋏未製品	"	078	133	
21	"	二又鋏	"	079	137	
22	"	建築材	"	090	332	
23	"	八又鋏	"	099	162	
24	"	平鋏	弥生	114	093	接合
25	"	"	"	115	094	"
26	"	"	"	116	096	"
27	"	"	"	117	097	接合・復元
28	"	長柄鋤	"	118	107	接合
29	"	着柄鋤	"	119	106	接合・復元
30	"	五又鋏	"	121	105	接合
31	"	三又鋤	"	124	109	"
32	"	さらえ	古墳	125	178	"
33	"	"	弥生	126	111	"
34	"	長柄鋤	"	129	108	"
35	"	田下駄	"	131	114	"
36	"	鎌柄	"	133	116	接合
37	"	有柄木製品	"	136	112	接合・復元
38	"	"	"	137	113	接合
39	"	ナスビ形木製品	古墳	138	175	
40	"	"	"	139	174	接合
41	"	二又鋏	"	141	134	"

整理No.	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
42	捨六町ツイジ	二又鋏	弥生	144	099	接合
43	"	三又鋏	古墳	149	158	"
44	"	平鋏	"	150	126	"
45	"	"	"	154	121	接合・復元
46	"	長柄鋤	"	158	165	接合
47	"	"	"	159	164	接合・復元
48	"	三又鋤	"	161	173	
49	"	長柄鋤	"	162	166	接合・一部復元
50	"	鎌柄	"	165	187	
51	"	槌	"	170	251	接合
52	"	"	"	171	248	"
53	"	田下駄	古墳	172	192	接合
54	"	大足	"	173	197	
55	"	"	"	174	203	
56	"	"	"	175	198	
57	"	"	"	176	199	
58	"	"	"	177	201	
59	"	"	"	178	219	
60	"	"	"	181	196	
59-001	"	槽	弥生	004	010	接合・復元
002	"	石斧柄未製品	"	005	004	
003	"	諸手鋏未製品	"	008	015	接合
004	"	着柄鋤	"	020	028	"
005	"	長柄鋤	"	022	030	
006	"	諸手鋏	"	023	017	接合
007	"	エブリ	"	024	061	"
008	"	"	"	025	062	"
009	"	諸手鋏未製品	"	030	020	
010	"	鋤?	"	032	029	接合
011	"	農耕具柄	"	033	071	
012	"	槌	"	034	044	接合・復元
013	"	椀	"	036	072	
014	"	農耕具柄	"	037	036	接合
015	"	"	"	038	033	
016	"	"	"	039	034	
017	"	長柄鋤	"	040	031	
018	"	鉄斧柄	"	042	084	
019	"	石斧柄	"	043	048	接合
020	"	槽	"	046	053	
021	"	"	"	050	052	接合
022	"	杓文字	"	051	055	

整理No.	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
59-023	拾六町ツイジ	杓子柄?	弥生	W-052	056	
024	"	杓子	"	053	083	接合
025	"	シロカキ	"	061	255	接合・復元
026	"	有孔板材	古墳	065	321	
027	"	農耕具柄	弥生	071	070	
028	"	"	"	072	035	
029	"	二又鍬	古墳	077	146	接合
030	"	平鍬	"	080	132	
031	"	二又鍬	"	081	143	接合・復元
032	"	"	"	082	141	"
033	"	"	"	084	152	"
034	"	槌	"	089	252	接合
035	"	三又鍬	"	091	—	接合・復元
036	"	長柄鋤	"	097	172	
037	"	木鍬	"	103	262	
038	"	"	"	104	265	
039	"	"	"	105	264	
040	"	"	"	106	270	
041	"	"	"	108	273	
042	"	"	"	109	276	
043	"	"	"	221	267	
044	"	杭?	"	111	—	接合
045	"	有柄木製品	"	113	189	接合・復元
046	"	三又鍬	弥生~古墳	120	102	接合
047	"	杵	弥生	128	041	復元
048	"	大足	弥生~古墳	130	115	接合
049	"	杓子	"	132	119	"
050	"	碗	"	134	117	"
051	"	ナスビ形木製品	古墳	140	176	"
052	"	二又鍬	"	142	139	復元
053	"	"	"	143	142	接合
054	"	"	"	145	151	"
055	"	又鍬	弥生~古墳	146	104	
056	"	平鍬	古墳	153	127	
057	"	"	"	155	122	接合
058	"	着装組合具	"	156	181	"
059	"	農耕具柄	"	163	183	
060	"	"	弥生	164	037	
061	"	"	古墳	166	184	接合
062	"	板材	"	180	320	
063	"	大足	"	182	231	
064	"	"	"	183	232	
065	"	板材	"	184	318	接合

整理No.	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
59-066	拾六町ツイジ	板材	古墳	W-185	319	
067	"	大足	"	186	211	
068	"	"	"	187	206	
069	"	"	"	188	222	
070	"	"	"	189	220	
071	"	"	"	190	240	
072	"	"	"	191	202	接合
073	"	有孔板材	"	194	307	"
074	"	大足	"	195	228	
075	"	"	"	196	229	
076	"	田下駄	"	197	193	
077	"	有孔板材	"	198	308	
078	"	大足	"	199	230	
079	"	"	"	200	233	
080	"	有孔板材	"	201	306	
081	"	"	"	202	303	
082	"	曲物?	"	203	289	
083	"	有孔板材	"	204	313	
084	"	"	"	205	309	
085	"	"	"	207	301	接合
086	"	板材	"	208	322	"
087	"	大足	"	209	216	
088	"	エブリ	"	210	179	接合
089	"	"	"	211	180	"
090	"	大足	"	214	237	"
091	"	有孔円盤	"	219	288	"
092	"	杭?	"	220	—	"
093	"	クサビ	"	222	—	
094	"	穿孔木製品	"	223	287	
095	"	把手付容器	"	224	279	
096	"	杓子未製品	"	225	284	
097	"	槽	"	226	282	接合
098	"	碗	"	227	277	
099	"	高杯	"	228	281	
100	"	鍋蓋	"	231	285	接合
101	"	大足	"	234	235	
102	"	木鍬	"	239	263	
103	"	"	"	240	269	
104	"	"	"	241	268	
105	"	"	"	242	266	接合
106	"	"	"	243	272	
107	"	"	"	244	275	
108	"	"	"	245	274	

整理No	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
59-109	拾六町ツイジ	三又鍬	弥生	W-257	023	
110	"	諸手鍬	"	258	018	接合
111	"	エブリ状木製品	"	261	069	"
112	"	三又鍬	古墳	282	153	"
113	"	平鍬	"	283	123	接合・復元
114	"	三又鍬	弥生～古墳	294	101	接合
115	"	"	"	295	100	接合・復元
116	"	二又鍬	古墳	301	135	接合
117	"	ナスビ形木製品	"	303	177	接合・復元
118	"	二又鍬	"	304	149	"
119	"	"	"	305	147	接合
120	"	"	"	306	140	接合・復元
121	"	"	"	312	136	"
122	那珂深ヲサ1次	板材		試-1		
123	"	有孔板材		2		
124	"	二又鍬	古墳	W-301		
125	"	槌	"	302		
126	"	二又鍬	"	404		接合
127	"	とい	"	574		
128	"	板材	"	621		
129	"	建築材	"	638		
130	"	平鍬	"	671		接合
131	"	槌	"	780		"
132	"	建築材	"	782		
133	"	ナスビ形二又鍬	"	787		
134	"	三又鍬	"	788		接合
135	"	二又鍬	"	789		
136	"	杭	"	792		
137	"	有孔板材	"	794		接合
138	"	"	"	795		
139	"	鋤	"	796		接合
140	"	"	"	797		
141	"	長柄鋤	"	798		接合
142	"	"	"	799		"
143	"	"	"	800		"

表3 財団法人元興寺文化財研究所委託木器保存処理分

整理No	遺跡	器種	時代	報告書番号	目録番号	備考
132	拾六町ツイジ	有柄木製品	弥生	W-006	006	
133	"	高杯	"	009	009	
134	"	"	"	010	008	
135	"	漆塗布容器	"	013	016	
136	"	漆塗布腕輪	"	014	057	
137	"	紡錘車	"	018	049	
138	"	"	古墳	101	260	
139	"	"	"	102	261	
140	"	木鏝	"	107	271	
141	"	模造船	古墳	110	291	
142	"	紡錘車	奈良～平安	216	259	
143	"	杓文字	"	229	283	
144	"	"	弥生～古墳	230	118	
145	"	剣形木製品	弥生	235	077	
146	"	"	"	237	293	
147	"	木偶	奈良～平安	238	334	
148	"	線刻木製品	"	246	338	接合
149	"	鳥形木製品	"	247	337	
150	"	人形木製品	"	248	335	
151	高畑	木筒	奈良	W-1		
152	"	"	"	2		
153	"	"	"	3		
154	"	"	"	4		
155	"	"	"	5		
156	"	"	"	6		
157	"	"	"	7		
158	"	"	"	8		
159	"	"	"	9		
160	"	"	"	10		
161	"	"	"	11		
162	"	曲物	"	Fig26-16		アルコニル：キシレン法による

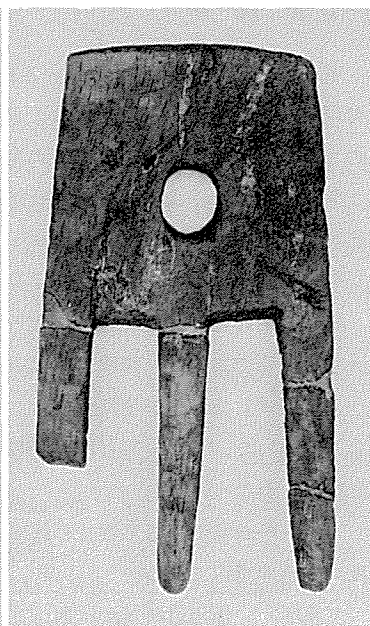
- <報告書・目録>●拾六町ツイジ遺跡 『拾六町ツイジ遺跡』
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第92集, 1983
『収蔵資料目録第1集-西区拾六町ツイジ遺跡I』
福岡市埋蔵文化財センター, 1985
- 那珂深ヲサ遺跡(1次) 『那珂深ヲサ遺跡I』
福岡市埋蔵文化財調査報告書 第72集, 1981
- 高畑遺跡 「B-12b・c調査区」『板付周辺遺跡調査報告書(9)』
福岡市埋蔵文化財調査報告書第98集, 1983



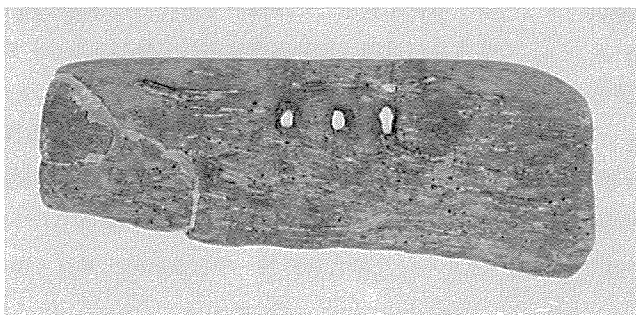
No. 1



No.19



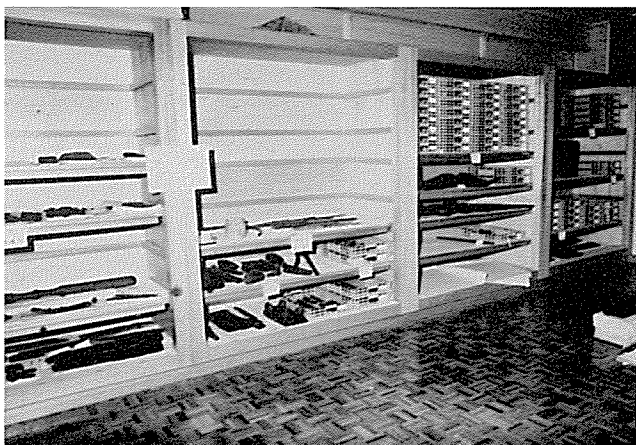
No. 4



No. 9



No. 6



保存処理済木器

処理済木器の収納(2階特別収蔵庫)

(2) 金属器

現在、当センターに収蔵している金属製遺物は、鉄・青銅製品を中心に2000余点におよぶ。一部未整理のものがあ、その実数はさらに増加する。

昭和59年度は、このうち下記の18遺跡(群)出土の鉄器1062点について、保存処理カード作製および錆取りを行なった。

錆取りの対象となったものは鍔・馬具が多く、その大半が破片であった。錆取りには小型電動グラインダー、精密噴射加工機を主に使用し、他に針・ニッパーなども用いた。また一部剥離の著しい鉄器に関しては仮接合を行なった。

これらの鉄器の脱塩処理、合成樹脂含浸は昭和60年度に実施の予定である。

〈東区〉 蒲田遺跡(かけ塚山古墳)24点、和白遺跡群(高見1・2号墳、宮の前1号墳、飛山古墳、

猿の塚古墳、上和白、下和白)150点、下和白塚原古墳群4点、海の中道遺跡42点

〈博多区〉 席田遺跡群13点

〈城南区〉 早苗田D群10号墳31点、片江古墳群(3・6・7・8号墳)37点、

〈南区〉 大牟田古墳群(1~3・5~8・11~14・16・17・19・23・28・29・32・38・40・43号墳)151点

〈早良区〉 藤崎遺跡6点、有田遺跡2点、西新町遺跡6点

〈西区〉 夫婦塚古墳(1・2号墳)113点、十郎川遺跡32点、野方塚原遺跡10点、野方中原遺跡11点、吉武塚原古墳群(1~5・7号墳)305点、広石古墳群(II-2・IV-2号墳)7点、徳永アラタ古墳群(2・3・5・6号墳)121点(遺跡名は報告当時の名称による)

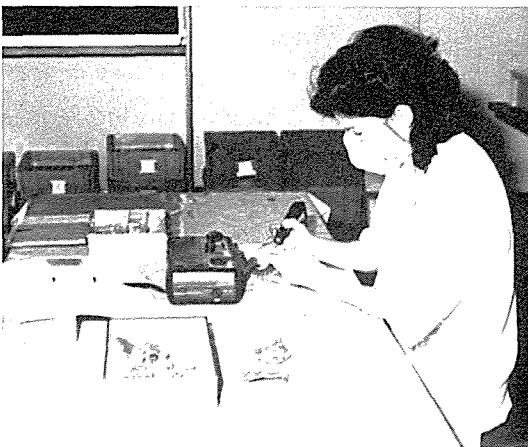
(3) 遺構の保存処理・取り上げ

○金隈遺跡(博多区)整備に伴う覆屋内露出遺構の保存処理…奈良国立文化財研究所沢田正昭・秋山隆保氏の指導のもと、当センターからは山口、浜石が保存処理にあたる。また展示に使用する襖棺の復元・補強作業をセンターで行なう。

○戸原麦尾遺跡(粕屋郡)井戸址の取り上げ…曲物を用いた井戸側を、発泡ウレタンを利用し取り上げる。2ヶ所。

○吉武遺跡(西区)製鉄址の取りあげ…発泡ウレタン・木枠を利用した遺構取りあげの指導。

○宇木汲田遺跡(佐賀県唐津市)土層剥ぎ取り…昭和59年度科学研究費補助金研究「北部九州における弥生文化の成立」(代表横山浩一九州大学教授)の依頼により、山口が出張。トマックNR-51等を使用。



鉄器錆おとし(3階金属器処理室)



整理作業(2階整理室)

3. 調査研究

(1) 遺物の収蔵等に関する調査

センターの二期工事（増築）をひかえ、各地の類似施設における遺物の収蔵・保管・公開および施設管理について調査（千鳥・飛高・山口・浜石）。

〈調査施設〉 国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館・東京国立博物館・東京都埋蔵文化財センター・

神奈川県立埋蔵文化財センター・石川県立埋蔵文化財センター・愛知県陶磁資料館・奈良県立橿原考古学研究所・名古屋市見晴台考古資料館・京都市埋蔵文化財研究所・尼崎市立田能資料館・千葉市加曽利貝塚資料館

(2) 遺物の保存処理に関する調査・研究

○奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研修「保存科学課程」参加（昭和59年10月23日～11月8日、浜石）。

○奈良国立文化財研究所「保存科学研究集会」参加（昭和60年3月19・20日、山口・浜石）。

○博物館等建設推進九州会議主催「文化財の修復に関する座談会」（大分県九重）に参加（昭和59年10月20日～21日、山口）。

○奈良国立文化財研究所、元興寺文化財研究所にて保存処理法の調査（昭和60年2月21日、飛高）。

(3) 図書

昭和59年度の受入れ図書は、購入410冊（一般238冊、雑誌172冊）、寄贈473冊（一般455冊、雑誌18冊）の合計883冊。

昭和59年3月31日までの蔵書数は、一般3312冊、雑誌1149冊の合計4461冊。うち購入2845冊、寄贈1616冊。

定期購入（一部寄贈も含む）している雑誌は下記の36種。

〈国内発行〉 博物館研究・考古学研究・考古学雑誌・貝塚・季刊考古学・月刊考古学ジャーナル・古代

学研究・古代を考える・東アジアの古代文化・物質文化・信濃・えとのす・季刊人類学・月刊文化財発掘出土情報・文化庁月報・研究連絡紙・古代文化・みくに・文化財ふくやま・福岡考古・古文化談叢

〈国外発行〉 古文化・文化財・百済研究・韓国考古学年報・韓国考古学報（以上韓国）、考古・文物・考古学報・考古学文物・中原文物・内蒙古文物考古・農業考古・文物集刊・文物資料叢刊・湖南考古輯刊（以上中国）



収蔵室



図書室

4. 教育普及活動

(1) 展示

常設展示…（1階展示室）

導入として福岡市内の遺跡地図・埋蔵文化財の意義、発掘調査の手順の壁面パネルを設ける。主テーマは4つで、埋蔵文化財の発見から保存に至る過程を示す。

「遺跡をみつける」 遺跡がどのようにして発見されるかをパネルなどで説明。

「時代と年代をきめる」 層位・型式・自然科学的な方法から、遺構・遺物の相対年代・絶対年代の決め方を説明。南区柏原遺跡の剥ぎ取り土層と、そこから出土した縄文土器を組み合わせ層位的な相対年代を例示し、また遺構の切り合いや須恵器の型式による相対年代の方法を示す。絶対年代については甕棺の型式と副葬された中国鏡による年代決定と、自然科学的年代決定法を説明。

「出土遺構・遺物からわかること」 早良区有田遺跡の住居跡写真パネルと出土土器、東区海の中道遺跡の貝塚写真と出土した具によって、出土遺構・遺物からわかることの一部を示す。

「遺跡・遺物を保存する」 出土遺物・遺構の保存について、パネルおよび保存処理済遺物で示す。アル

コール・キシレン法による博多区板付遺跡・早良区四箇遺跡の木器、合成樹脂含浸法による早良区藤崎遺跡の金属器、遺構としては柏原遺跡の取り上げ炉（展示室中央）を展示。遺跡の保存として博多区金隈遺跡、西区吉武K7号墳を写真パネルなどで示す。

速報展…（1階展示室）

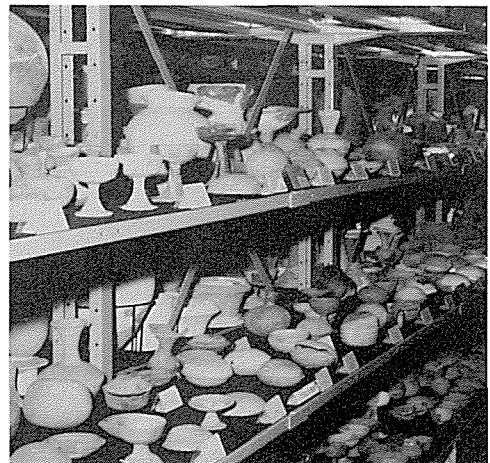
「昭和58年度の発掘調査から」と題し、8月に展示替え。城南区浄泉寺遺跡・西区野方柳原台遺跡・早良区重留A-1号墳・地下鉄路線内遺跡（藤崎・早良区西新・中央区福岡城・博多区博多遺跡）の遺物およびパネルを展示。他にパネル展示だけのものとして、西区鋤崎古墳・飯盛遺跡・博多区那珂久平遺跡・東区多々良込田遺跡。

収蔵展示…（2階収蔵庫）

膨大な出土遺物のうち、完形・復元遺物の一部を遺跡単位で収蔵展示。旧石器時代から中・近世におよぶ市内50遺跡、3000点余の遺物を、ほぼ時代順におさめる。申し出により観覧。



展示室(速報展示)



収蔵展示室

(2) 講座・講演

埋蔵文化財に関する教育・普及のために、下記のよ
うな講座、講演を行った。

8月以降の6回は「弥生時代史」のテーマで、弥生時
代の遺物と、その意味などについて解説。

考古学入門講座…4・8・9・11～2月の7回開催。

回	開催月日	題 目	講 師	内 容	受講者数
1	4月21日	近年の発掘調査から	文化課 柳田純孝	鋤崎古墳・比恵遺跡・飯盛遺跡など昨年の発掘調査を中心に、考古学の現状について述べる。	65人
2	8月18日	弥生時代史Ⅰ 弥生土器①	九州大学 西健一郎	縄文時代晩期～弥生時代前期の土器の変遷。	96人
3	9月29日	弥生時代史Ⅱ 弥生土器②	九州大学 田崎博之	弥生時代中～後期の土器の変遷およびその製作技法。	60人
4	11月11日	弥生時代史Ⅲ 墓制	文化課 小林義彦	墓の種類、その変遷、祭祀、副葬品などから弥生時代社会を復元。	87人
5	12月1日	弥生時代史Ⅳ 石器	文化課 横山邦継	弥生時代の石器の種類と機能等について実物を例にとって解説。	62人
6	1月19日	弥生時代史Ⅴ 金属器	文化課 大庭康時	鉄・青銅を用いて製作された器物の種類、日本への伝播・展開。	65人
7	2月23日	弥生時代史Ⅵ 土器祭祀	福岡県教育委員会 馬田弘稔	栗田遺跡等の祭祀遺構・遺物の検討を通じて、祭祀のもつ意味を追求。	75人

考古学教室…5～7月の4回にわたり、元九州歴史

資料館学芸第二課長渡辺正気氏による「北部九州の歴

史」。最終回は博多遺跡の見学会。

回	開催月日	題 目	講 師	内 容	受講者数
1	5月26日	原始時代	元九州歴史資料館 学芸第二課長 渡辺正気	旧石器時代～中・近世までの北部九州の歴史を、考古学・文献の両面から平易に解説。最終回は遺跡見学を通じて、歴史をより身近なものとして認識。	85人
2	6月16日	古 代			70人
3	7月7日	中世・近世			70人
4	7月18日	博多遺跡群見学			54人

特別講演…11月と3月に2回開催。3月の特別講演

は、センター開館三周年および史跡金隈遺跡オープン

記念として実施。

回	開催月日	題 目	講 師	内 容	受講者数
1	11月10日	弥生時代をめぐる 諸問題	西南大学助教授 下條信行	1. 水稲耕作開始期の日本と大陸 2. 北部九州の祭り 3. 弥生時代の畿内と九州	93人
2	3月23日	今よみがえる金隈 遺跡	九州大学教授 岡崎敬	弥生時代の福岡	210人
			九州大学教授 永井昌文	弥生時代の金隈の人	
			文化課 折尾学	金隈遺跡の調査から保存まで	

体験考古講座…小・中学生およびその保護者を対象とし、8月7～9日の3日間開催。7日は発掘調査についての事前学習。8・9日は文化課の協力を得、西区吉武遺跡で甕棺などの発掘調査。参加者80名。修了証発行。

遺跡見学バスハイク…9月26・27日。要望が多かったため、今年度は同一コースを2回にわたって見学。コースは博多区金隈遺跡→那珂八幡古墳→前原町遺物復元室→前原町立伊都国資料館→西区飯盛遺跡→早良区田村遺跡。前原町教育委員会、文化課の協力を得た。参加者90名。

夏休み考古映画の会…7月26日～8月26日の間、総数20本の考古・歴史を中心とした市フィルムライブラリーの映画を上映。

その他…NHK福岡放送局と共催で、2月17日、「古代の福岡を知ろう・親子歴史教室」を開催。センター見学の後、金隈遺跡、粕屋町戸原麦尾遺跡、東区唐の原遺跡をバスハイク。

夏休み考古映画の会

回	開催期間	題 目	時間(分)	参加者数
1	7月26日 ～29日	●日本列島の誕生 ●旧石器時代の狩人たち ●縄文土器 ●登呂の村 ●杜子春	114	170人
2	7月31日 ～8月5日	●大むかしの生活 ●古墳の時代 ●古墳から見た大和の朝廷 ●ニルスのふしぎな旅—ツルの舞踏会—	86	166人
3	8月8日 ～12日	●西の都大宰府 ●奈良の都 ●平安の都 ●にんぎょひめ	89	157人
4	8月14日 ～17日 ・19日	●蒙古の来襲 ●鉄砲の伝来 ●キリシタンとヨーロッパ文化 ●草原の子テングリ	80	126人
5	8月21日 ～26日	●安土・桃山の社会と文化 ●江戸幕府 ●インダイしまごろう	81	131人

(3) 資料の提供

資料の利用提供…市民、研究者、博物館等類似施設、マスコミ等による収蔵資料およびセンター施設の調査、撮影、写真貸与、印刷物掲載などの利用。

資料の貸出し…博物館等の展示・調査に収蔵資料を貸し出した。

- 三沢市歴史民俗資料館（5月10日～5月22日）
16mm映画「奴の国」。
- 北九州市立考古博物館「須恵器のはじまり展」(7月15日～10月15日)有田遺跡陶質土器・須恵器19点。
- 佐賀県立九州陶磁文化館「国内出土の肥前陶磁器展」(7月1日～12月10日)福岡城御鷹屋敷跡出土伊万里色絵碗1点。
- 尼崎市立田能資料館（8月15日～8月21日）16mm映画「奴の国」。

- 福岡市立野多目小学校（7月14日～3月31日）
野多目遺跡出土遺物64点。
 - 大阪市立博物館「稲作2500年展」（9月3日～11月22日）有田七田前・十郎川・瑞穂・四箇・板付・三筑遺跡出土の土器・木器等35点。
 - 市立市川考古博物館（9月3日～3月31日）西新町遺跡第12号甕棺1組。
 - 福岡市立中央市民センター（12月1日）16mm映画「奴の国」
 - 焼津市教育委員会（1月31日～3月10日）金隈遺跡甕棺出土状況、板付遺跡水田跡スライド各1点。
- 図書の間覧…6月～9月と1～3月について閲覧者の統計をとった。この7ヶ月間の閲覧者の合計は、大人299人、小・中学生922人である。

(4) 刊行物

- 福岡市埋蔵文化財センター年報第3号（昭和58年度）B5版20ページ。6月1日刊行。センター関係者・関係機関に配布。
- 収蔵資料目録第1集（西区拾六町ツイジ遺跡I）

- B5版80ページ。3月31日刊行。センター関係者・関係機関に配布。
- センター案内パンフ。入館者に配布。

(5) 入館者数

1. 入館者総数

区 分		4月 (25日)	5月 (27日)	6月 (26日)	7月 (26日)	8月 (27日)	9月 (26日)	10月 (26日)	11月 (26日)	12月 (23日)	1月 (23日)	2月 (24日)	3月 (27日)	合 計 (306日)	比 率	
個 人	一 般	男	181	222	200	190	254	175	227	206	229	205	294	362	2,745	31.5%
		女	84	123	90	101	175	118	108	96	81	109	164	198	1,447	16.6
		小 計	265	345	290	291	429	293	335	302	310	314	458	560	4,192	(48.2)
	学 生	小学生	173	300	170	294	645	243	156	112	86	126	157	225	2,687	30.9
		中学生	28	68	54	93	140	49	56	44	33	42	44	62	713	8.2
		高校生	9	18	12	9	19	10	9	15	8	14	14	20	157	1.8
		大学生	11	35	20	29	85	30	40	32	21	32	62	52	449	5.2
		その他	15	32	37	55	84	42	37	39	27	32	41	66	507	5.8
		小 計	236	453	293	480	973	374	298	242	175	246	318	425	4,513	(51.8)
	合 計(a)		501	798	583	771	1,402	667	633	544	485	560	776	985	8,705	100
	団 体	一 般 (団体数)	96 (4)	202 (5)	250 (8)	268 (6)	290 (8)	206 (5)	541 (13)	529 (13)	129 (4)	361 (10)	532 (8)	475 (10)	3,879 (94)	47.2
		小 学 生	195 (1)	0 (0)	844 (6)	340 (2)	171 (6)	365 (2)	751 (5)	1,277 (10)	90 (1)	22 (2)	0 (0)	16 (1)	4,071 (36)	49.5
		中 学 生	8 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	40 (2)	0 (0)	25 (2)	0 (0)	7 (1)	88 (7)	1.1
高 校 生		0 (0)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	0.1	
大 学 生		0 (0)	0 (0)	50 (1)	30 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	90 (2)	0 (0)	0 (0)	170 (4)	2.1	
合 計(b)		299 (6)	207 (6)	1,144 (15)	646 (10)	461 (14)	571 (7)	1,292 (18)	1,846 (25)	219 (5)	498 (16)	532 (8)	498 (12)	8,213 (142)	100	
総 計(a + b)		800	1,005	1,727	1,417	1,863	1,238	1,925	2,390	704	1,058	1,308	1,483	16,918		

2. 個人入館者年齢区分

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	比 率
0 ~ 19才	224	426	272	459	902	344	260	212	153	217	256	371	4,096	47.0%
20 ~ 29	66	79	76	62	133	86	102	92	71	97	127	139	1,130	13.0
30 ~ 39	66	97	91	110	144	84	91	80	112	99	139	172	1,285	14.8
40 ~ 49	59	102	80	84	129	76	84	62	75	82	121	137	1,091	12.5
50 ~ 59	55	59	37	41	72	55	61	65	43	42	84	102	716	8.2
60 ~ 69	16	26	20	12	18	14	25	29	26	20	40	48	294	3.4
70 ~ 79	12	9	5	3	3	8	9	3	4	3	9	14	82	1.0
80 ~	3	0	2	0	1	0	1	1	1	0	0	2	11	0.1
計	501	798	583	771	1,402	667	633	544	485	560	776	985	8,705	100

3. 個人入館者住所区分

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	比 率
福 岡 市	358	634	484	614	1,131	544	491	417	343	453	592	691	6,752	77.6%
福 岡 県 内	114	122	78	116	153	92	97	76	75	73	120	192	1,308	15.0
県 外	29	42	21	41	118	31	45	51	67	34	64	102	645	7.4
計	501	798	583	771	1,402	667	633	544	485	560	776	985	8,705	100

4. 収蔵室(2階)見学者 14,083人

施設管理業務の概要

1. 施設管理業務の委託

昭和59年4月1日

- 警備・清掃・受付応待案内業務を東京ビル整備株式会社に委託する。
- 自動電話交換機設備保守業務を日新電設株式会社に委託する。
- 昇降機設備保守業務を株式会社九州クマリフトに委託する。
- 自動火災報知設備等保守業務をホーチキ株式会社に委託する。
- 浄化槽設備保守業務をベスト工業株式会社に委託する。
- 空気調和設備保守業務をグイキン工業株式会社に委託する。
- 冷凍設備保安業務を福岡県冷凍設備保安協会に委託する。
- 電気設備保安業務を社団法人九州電気管理技術者協会の中村豊彦氏に委託する。
- 自動扉設備保守業務をオリエント産業株式会社に委託する。

託する。

- 館内装飾用植木鉢借上契約をうらかわ園芸と締結する。
- 樹木等保育管理を太陽緑化株式会社に委託する。
昭和59年7月27日
- 展示室速報コーナー展示替を株式会社ケンラン社に委託する。(7/28～8/24)
昭和59年9月1日
- 埋蔵文化財出土木器保存処理事業を財団法人元興寺文化財研究所に委託する。(9/1～3/31)

2. 施設の整備・補修

- 5月21日 避難誘導灯取り替え。
- 8月17日 講座用レクチャーテーブルパイロットランプ取り替え。
- 8月23日 空調用エヤハンドリングユニットベアリング交換。
- 12月18日 木器保存用プール蓋取り替え。



昭和59年度予算

歳入

(単位千円)

事 項	金 額	内 容
教育費国庫補助金	1,000	出土遺物(木製)保存処理費国支出金
教育費県補助金	500	〃 県支出金
保険料収入	9	雇用保険料収入
雑 入	3	私用電話通話料
合 計	1,512	

歳出

(単位千円)

事 項	金 額	内 容
運管 費理		
一般管理費	2,133	印刷消耗品、電話料、自動車借上料
施設管理費	22,288	光熱水費、受付案内・警備・清掃委託、機械保守点検
事 業 費		
調査研究費	3,273	図書、遺物保存処理研修旅費
資料分類整理費	1,381	整理用品、賃金
教育普及活動費	1,166	年報、図録、講座
資料保存整備費	1,480	フィルム、現像液、印画紙
出土遺物保存処理費	2,000	木製遺物保存処理費
合 計	33,721	

福岡市埋蔵文化財センター条例

(昭和56年12月21日)
条例第66号

(設置)

第1条 発掘調査等で出土した考古学的資料(以下「資料」という。)の保存と活用を図り、もって市民文化の向上に資するため、福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)を福岡市博多区井相田二丁目に設置する。

(事業)

第2条 センターは、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料を展示し、公開すること。
- (3) 資料の専門的調査研究を行うこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、センターの設置の目的達成に必要なこと。

(職員)

第3条 センターに所長その他必要な職員を置く。

(入館の制限)

第4条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒み、又は退去を命ずることができる。

(1) センターの管理上必要な指示又は指導に従わない者

(2) センターの管理上支障があると認められる者(資料の貸出し)

第5条 教育、学術若しくは文化に関する機関若しくは団体又は学術研究のため特に資料を利用しようとする者は、教育委員会の許可を受けて資料の貸出しを受けることができる。

2 前項の貸出しは、資料の保管について安全が確保できると認められる場合に限り行うものとする。(損害賠償)

第6条 資料の観覧者又は貸出しを受けた者が、その責めに帰すべき理由によりセンターの建物若しくは施設又は資料を破損し、又は汚損して本市に損害を与えたときは、これらを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、センターの管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

る。

この条例は、公布の日から起算して3月を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行す

(昭和57年教規則第3号により)
(昭和57年2月22日から施行)

福岡市埋蔵文化財センター条例施行規則

(昭和57年1月25日)
(教育委員会規則第4号)

(趣旨)

第1条 この規則は、福岡市埋蔵文化財センター条例(昭和56年福岡市条例第66号、以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 福岡市埋蔵文化財センター(以下「センター」という。)の事務を行うため、センターに管理係を置く。

(職員)

第3条 センターに所長、係長、吏員その他の職員を置く。

- 2 前項の職員のほか、特定事務を担当させるため、センターに文化財主事を置くことができる。
- 3 所長、係長及び文化財主事は、吏員のうちから命ずる。
- 4 所長及び係長は、上司の命を受けてセンター又は系の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- 5 文化財主事は、上司の命を受けて担当事務を処理する。
- 6 吏員その他の職員は、上司の命を受けて分担する事務を処理する。

(職務権限の代行)

第4条 所長に事故がある場合、又は所長が欠けた場合において、特に事務取扱者を命じないときは、係長がその係に属する事務について所長の職務権限を代理して行う。ただし、重要又は異例な事務については、文化部長の指揮を受けなければならない。

- 2 前項の規定により所長の職務権限を代理して行う者がいないときは、文化部長が行う。

(開館時間)

第5条 センターの開館時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育長は、必要があると認める場合には、これを変更することができる。

(休館日)

第6条 センターの休館日は、次のとおりとする。た

だし、教育長は、必要と認める場合には、これを変更し、又は臨時に休館日を設けることができる。

- (1) 毎週月曜日
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで
(入館者の心得)

第7条 センターに入館する者は、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 所定の場所以外の場所で飲食し、喫煙し、又は火気を使用しないこと。
- (2) 騒音を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 危険物又は動物を持ち込まないこと。
- (4) 所定の場所以外に立ち入らないこと。
- (5) 職員が行う管理上必要な指示又は指導に従うこと。

(貸出し)

第8条 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しを受けようとする者は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可申請書(様式第1号)を教育長に提出しなければならない。

- 2 条例第5条第1項の規定による資料の貸出しの許可は、福岡市埋蔵文化財センター資料貸出許可書(様式第2号)を交付して行う。

(寄贈等)

第9条 センターに資料を寄贈し、又は寄託しようとする者は、教育委員会に申し出なければならない。

- 2 寄託を受けた資料の貸出しは、寄託者の承諾を得て行うものとする。

(委任)

第10条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和57年2月22日から施行する。

